

**くらしとバイオプラザ21
設立に向けた検討報告**

平成13年6月5日

くらしとバイオプラザ2 1 設立準備WG

はじめに（当報告書の趣旨）

本報告書は「くらしとバイオプラザ21」の設立に当たり、その「事業化基本計画」と「設立への準備と方策」をまとめたものです。

本報告書の作成にあたったのは、本課題の検討を目的に組織された「くらしとバイオプラザ21設立準備ワーキング・グループ」（以下WGと略）であり、本内容は「日本バイオ産業人会議」の拡大世話人会で承認を受けたものです。

くらしとバイオプラザ21は本報告書にもとづき、2001年10月の任意団体設立、2002年4月の特定非営利活動法人登録をめざし、事業化に向けた活動を展開していきます。

バイオテクノロジーについては、医療・食糧・環境という人類にとって極めて重要な課題を克服する技術として期待され、世界で激しい研究開発競争が展開されるなかで社会的な関心が高まっていますが、「生命・生物」を扱う技術でもあるだけに、様々な論議がうまれ、不安視する現象も起きています。

くらしとバイオプラザ21はこうした動向に対し、広く中立的に情報の提供を行い、関係者相互の対話の促進を図ろうとするものです。

バイオテクノロジーに限らず、新たな技術や製品の社会への導入を最終的に選択し、決定するのは市民であり、その社会的理解と信頼がなくては世の中に活用されず産業として成り立ちません。そして理解や信頼は一方的な情報提供では得られません。それはお互いの信頼性の問題であり、バイオテクノロジーという人類にとって貴重な技術を共有の社会資産ととらえ、共に育成していくような関係を創り出すことこそが肝要と考えます。

くらしとバイオプラザ21はこうした見地に立ち、バイオテクノロジーに関する「社会的合意形成に向けたコミュニケーション」を活動目的とするもので、市民、学界、行政、企業の間の中立的・仲介的な立場で、相互の対話を促し、情報交流を図り、バイオテクノロジーへの健全な社会選択を支援していきたいと考えております。

バイオテクノロジーについては、これまで、こうした役割を担う中立的な対話機関はありませんでした。それだけに、このようなくらしとバイオプラザ21のあり方を、産業界が自ら描くことは、決して平坦ではありませんでした。内容としても不十分な点も少なからずあるかと思われます。皆様より忌憚のないご指導ご鞭撻、お力添えを賜りたくお願いする次第です。

最後に、当WGのメンバーと「日本バイオ産業人会議」の拡大世話人会の皆様
様に、心より御礼を申し上げます。本計画は皆様の真摯な熱意から生み出され
たものです。

平成 13 年 6 月 5 日

くらしとバイオプラザ2 1 設立準備ワーキング・グループ委員長 真山武志

目 次

はじめに（当報告書の趣旨）
WGの開催スケジュール

くらしとバイオプラザ2 1事業化基本計画

- 1 . くらしとバイオプラザ2 1設立の意図
- 2 . くらしとバイオプラザ2 1の基本方針
- 3 . 主な活動内容
- 4 . 組織・体制のあり方
- 5 . 中長期の展開指針

設立への準備と方策

設立に向けて

WGの開催スケジュール

会議の経緯	準備WG	情報・コンテンツ分科会	コミュニケーション分科会	組織・体制分科会	
	12月25日	バイオ産業人会議拡大世話人 くらしとバイオプラザ21設立趣旨、構想、当初の計画			
くらしとバイオプラザ21設立準備WG委員会設置					
基本方針の検討	第1回WG 2月23日 目的： PAの背景 基本的考え方				
	第2回WG 3月16日 目的： 設立の構想 各委員の意見				
	第1回各分科会 3月27日 目的： 共通課題認識	分科会検討事項 討議	3月28日 分科会検討事項 討議	3月30日 分科会検討事項 討議	
	第2回各分科会 4月10日 目的： 実施内容 分科会案まとめ	4月10日 実施内容 討議	4月10日 実施内容 討議	4月12日 実施内容 討議	
	第3回WG 4月16日 目的： 各分科会案調整 中間報告まとめ	4月16日 各分科会案調整 中間報告案まとめ			
		4月25日	バイオ産業人会議拡大世話人会 WGより中間報告		
	第4回WG 4月27日 目的： 今後の検討事項 拡大世話人会報告				
	第3回各分科会 5月8日 目的： 実施内容 具体案の洗い出し	5月8日 実施内容 再討議	5月11日 実施内容 再討議	5月10日 実施内容 再討議	
	第4回各分科会 5月17日 目的： 分科会報告書案作成 action planのideaまとめ				
	第5回各分科会 5月24日 目的： 報告書案検討				
第5回WG 5月28日 目的： 報告書作成					
	6月5日	バイオ産業人会議総会 くらしとバイオプラザ21設立案説明			

くらしとバイオプラザ2 1事業化基本計画

1 . くらしとバイオプラザ2 1 設立の意図

バイオテクノロジーが目覚ましい進展をとげ、私たちの暮らしにとって身近な存在になり、社会的な関心が高まっていますが、それとともに、バイオテクノロジーに対する社会的な不安・不信も広がっています。今後、高度な技術研究開発が国際的な規模で進む一方、社会不安が広がり、社会的乖離が進んでいくことが危惧されます。

この技術を私たちの社会はどのように捉え、判断し、受け入れていくべきなのでしょう。社会的な合意形成のあり方が、いま問われています。

バイオテクノロジーへの不安や不信の背景には、「生命・生物」に関する技術への恐れ、急速に進展する科学技術そのものに対する不安、あるいはバイオ産業に関する企業や行政に対する不信など、様々な要因が重なり合っていると考えられます。科学者、企業、行政等の専門家からの一方的な情報提供だけで、社会的な合意形成を図ることはもはやできません。

相互信頼をもとにした健全な社会選択のための、新たな発想による社会コミュニケーションシステムが、いま求められていると考えます。

バイオテクノロジーは、例えば医薬分野であればテーラーメイド医療や遺伝子治療、食品分野では世界的な食糧不足の打破、環境分野では地球生態系保全など新たな環境対策など、21世紀における人類の重要な課題を克服する技術・産業として大きな期待がかけられる一方、遺伝子組換え作物の安全性、生態系・環境への影響、クローン技術、遺伝子治療への安全面、倫理面での問題など、社会全体としての十分な配慮が必要です。私たちは、この貴重な技術に対し、科学的知見と健全な市民常識に立脚し、人類共有の社会資産として注意深く見つめ、育成していくことが何よりも大切と考えます。

くらしとバイオプラザ2 1はこうした認識のもとに、科学者、企業、行政等の専門家とその成果を享受する生活者が、共に自ら社会を構築する健全な市民として、科学的知見や関連する情報をもとに、有機的なコミュニケーションを図り、相互の信頼と理解を基盤に日々発生する新たな問題に迅速に対処し、自ら望ましい社会合意を形成していくための新たな社会システムの構築を意図するものです。

そのためにくらしとバイオプラザ2 1はバイオテクノロジーに関する開かれ

た対話機関として、市民を含むすべての関係者の対話を促進、仲介していきます。

バイオテクノロジーの分野では、このような役割を果たす機関が、これまではありませんでした。

くらしとバイオプラザ2 1は開かれた対話をとおして、バイオテクノロジーに関する社会的な相互理解と信頼を繋いでいきたいと願います。

2. くらしとバイオプラザ21の基本方針

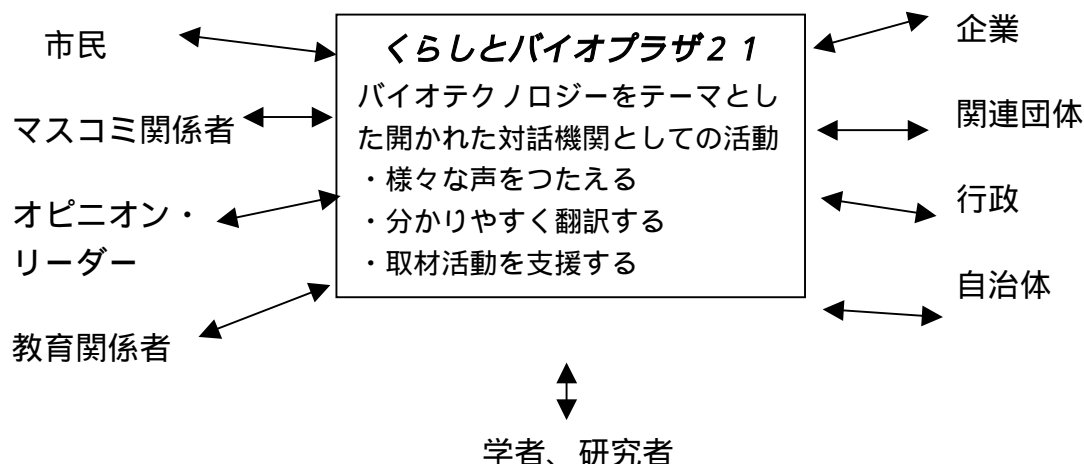
1) 活動の趣旨

医療、食糧、環境など、今後は幅広い展開が予想されるバイオテクノロジー、同製品・サービスに関し、科学的知見と健全な市民常識に立脚した社会選択を進めるため、中立的な立場から市民、産業界、学界、行政等との様々なコミュニケーションを促し、相互の信頼と理解を深め、バイオテクノロジーを貴重な社会資産として育成していきます。

2) 活動の目的と内容

くらしとバイオプラザ21の活動の目的は上記趣旨にもとづく、社会的な合意形成に向けたコミュニケーションの促進にあります。基本的には情報を仲介する対話機関として、主に以下のコミュニケーション活動を展開します。

- ・ 広く一般社会に対し、バイオテクノロジー関連の安全・倫理等の問題、有用性、海外での動きなどの情報をわかりやすく伝えるとともに、市民・社会からの疑問や質問に応えるための総合窓口機能を果たします。
- ・ 市民、社会の声を広く集め、関係者に伝え、必要に応じて公表します。
- ・ 産業界、学界、行政などバイオテクノロジー及び関連産業関係者の社会コミュニケーション活動を支援します。
- ・ 社会的な合意形成に大きな影響力をもつマスコミ関係者やオピニオンリーダー、市民団体や教育関係者等に対し、科学的知見にたった適切な情報提供を行うとともに、取材活動を支援し、活動へのアドバイスを得ます。
- ・ 産業界、学界、行政、そして個々の市民、市民団体等との論議、話し合いの場、機会を積極的に創り出します。



3) 活動の基本方針

< 暮らしとバイオプラザ21の基本的な姿勢 >

- ・ 最新の科学的知見・情報と健全な市民常識を基盤とし、思想的・政治的な中立性を堅持します。
- ・ 多くの団体や人々とのパートナーシップを蓄積し、偏りのない広範な情報を入手し、わかりやすく発信することにより、多くの人々に信頼され、支持される活動を目指します。
- ・ 本組織の事業活動は産業界からの支援を受けますが、活動内容は公益性と独立性を旨とします。
- ・ こうした姿勢を確かなものとするため、特定非営利活動法人（NPO）の登録を目指します。

< 暮らしとバイオプラザ21の運営指針 >

- ・ 広く世界に目を向け、様々な国際機関との連携をはかり、迅速かつまとまりのある情報提供を行います。
- ・ 医療・医薬、食品、環境など、バイオテクノロジーに関する様々な分野の横断的なコミュニケーションを図り、相互連携を促します。
- ・ 国内外の学界、公益団体や市民団体等との緊密なリレーションを基盤にコミュニケーション機能の強化を図ります。
- ・ 草の根的な全国展開を図り、広域的なネットワークを構築します。

3 . 主な活動内容

ここでは、「社会的な合意形成に向けたコミュニケーション活動」という目的に即し、**くらしとバイオプラザ21**が展開していく主な活動内容をあげます。

なお、これらの総てを設立時に準備することは困難ですが、順次整備していきます。

1) ニュース発信

バイオテクノロジーの研究開発は真に日進月歩であり、それに対応し、国内外で様々な規制や論議が日々生れています。

そうした最新の動向から、特に一般社会との係わりの深いものをピックアップし、科学的知見をバックボーンに、できるだけ分かりやすい形で迅速に情報発信していきます。

情報収集にあたっては、関連学界、関連公益団体等、**くらしとバイオプラザ21**のネットワークをフルに活用します。

< ニュース発信の方法 >

- ・ **くらしとバイオプラザ21**独自のホームページ運営及びメールマガジンの発信
- ・ 機関誌の発行（関係機関を通して広く配布）
- ・ 特に重要なニュースの場合は、マスコミ関係者への説明会を適宜開催し、情報仲介者として取材活動を支援します。

2) ホームページの運営

ホームページの運営は、**くらしとバイオプラザ21**におけるコミュニケーション活動の重要な施策であり、継続的なコミュニケーション活動の核と位置付けています。

基本的には社会に対するバイオテクノロジー関連情報の窓であり、バイオテクノロジーのポータルサイト（総合案内機能）としての整備を目指します。

当面のコンテンツとしては、上記のニュース発信・メールマガジン発行のほか、検索機能をもったデータベース構築及び関連リンク集、くらしとバイオブ

ラザ21の活動紹介、FAQ(よくある質問回答)、バイオ用語解説、バイオテクノロジーに関する意識アンケート調査等を整備し、継続的な機能強化を図っていきます。

なお、バイオテクノロジーへの情報ニーズとしては、主にビジネスニーズからの研究開発動向、国内外の規制動向等が考えられますが、当ホームページはあくまで一般社会を対象とし、ビジネスニーズを狙いとしたサイトとは一線を画していく考えです。

3) 出版

一般社会に対し、バイオテクノロジーの基礎知識を分かりやすく提供することは、コミュニケーション促進に向けた基本的な活動と言えます。

その手段としては、中立的な立場からの情報提供という点で、一般の書店で販売される出版活動を通して広く世論に問う方策が望ましいと考えられます。

くらしとバイオプラザ21は、こうした考えから特にバイオテクノロジーの基礎知識に関する情報発信の手段として、出版活動を重視していきます。一般の書店で販売され、全国の図書館に納入されるような出版事業として展開していきます。

< 出版企画方針 >

- ・ 広く一般を対象とした新書形式のシリーズ展開
- ・ 学校の副教材としても活用できる主に児童・生徒向けの学習・教育シリーズ等

4) 各種コミュニケーションイベントの開催

できるだけ多くの、多様な方々と直接話し合うイベントを様々な機会に、様々なスタイルで開催していきたいと考えています。

このコミュニケーションイベントは、くらしとバイオプラザ21の活動の根幹を支える重要なレーダーになるものと考えております。

以下はそうしたコミュニケーションイベントの展開例ですが、これに限られるものではありません。

これらのイベントで集めた声やアドバイスは、くらしとバイオプラザ21の貴重な資源として蓄積していきます。

< コミュニケーションイベント展開例 >

- ・ くらしとバイオプラザ2 1設立を広く知らしめる公開シンポジウムの開催。
- ・ オピニオンリーダー、マスコミ、市民団体、教育関係者等を集めての説明会や意見公聴会
- ・ 一般募集のモニターを集めた意見交換会
- ・ 児童・生徒を対象にした科学実験ワークショップと質疑応答
- ・ 関連企業の広報担当者を集めたコミュニケーション・ワークショップ
- ・ 全国巡回のキャラバン型の説明会や意見公聴会 等

5) コミュニケーションスペースの運営

バイオテクノロジーに関する社会への窓口として、関連資料を集めた資料室、相談・案内窓口等を備えたコミュニケーションスペースを開設、運営します。

6) コンサルティング・サービス

社会的なコミュニケーション対応に関し、バイオテクノロジーの関連企業や関連団体、自治体等を主なターゲットに、個々のリクエストに応じて必要な資料やアドバイスを提供するサービスを行います。

このサービスは企業や団体、自治体等と市民とのコミュニケーション支援を狙いとするものです。

7) 社会意識調査・分析

バイオテクノロジーに関する社会意識について、適宜調査・分析を行い、その結果をコミュニケーション活動の改良に生かすとともに公表します。

4 . 組織・体制のあり方

1) 組織・体制整備の基本方針

くらしとバイオプラザ21はその果たすべき社会的役割を考慮し、「特定非営利活動法人」(NPO)として、公益性、中立性を堅持していくことが妥当と考えます。

具体的には、2001年10月にはそのための準備段階として任意団体を設立し、2002年4月にはNPOとして登録を行う予定で活動を進めていきます。

NPOの組織体制については、次項で示していますが、総会・理事会・事務局からなるシンプルなものとし、柔軟かつ迅速な業務対応のできる、実行力をもった活動組織とします。

理事会メンバーにはバイオ関連産業との係わりをもたない第三者(複数)を加え、中立性を確保します。具体的には、今後、以下の方面から候補を選定していきます。

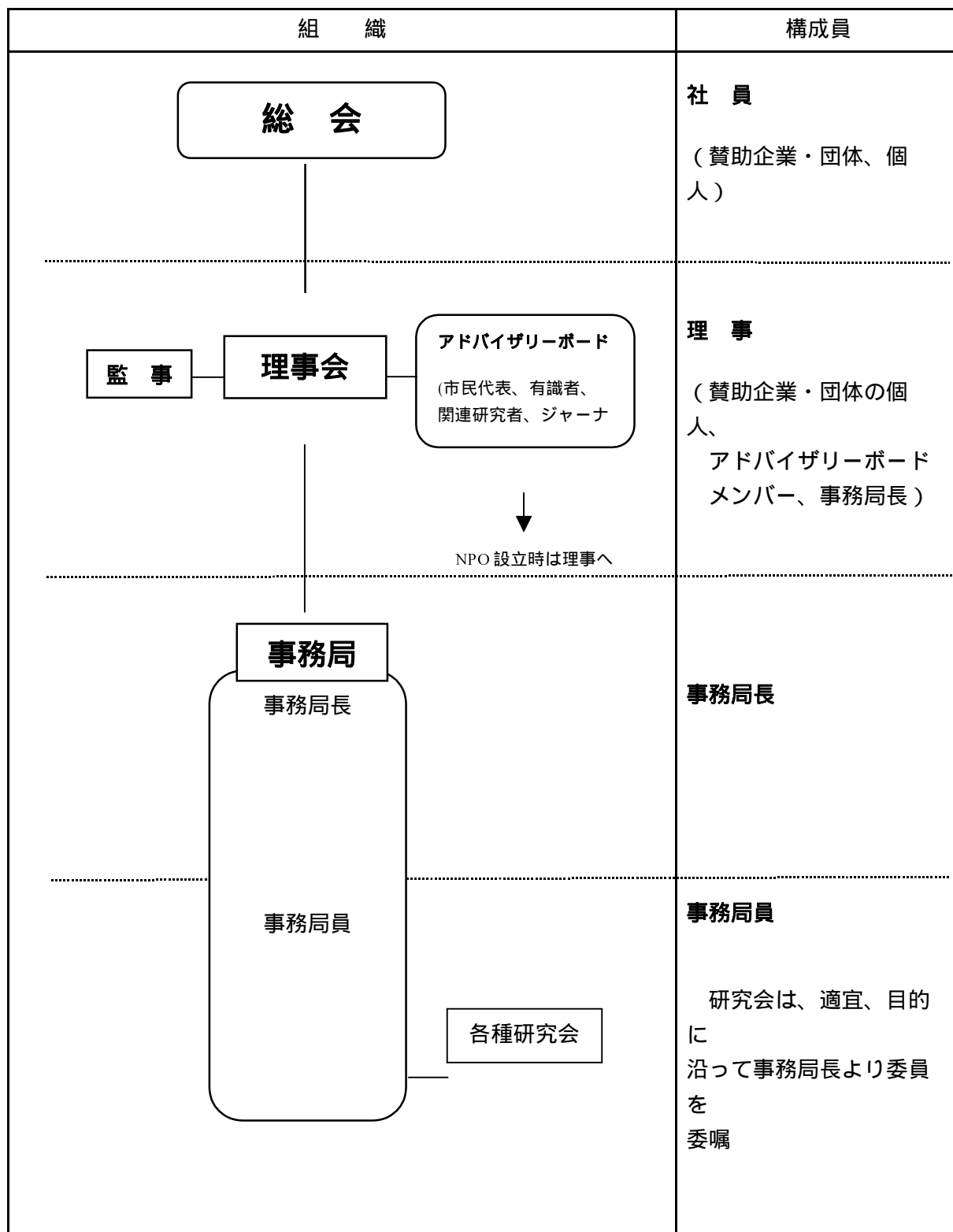
- ・ 市民代表
- ・ 関連研究者
- ・ 有識者
- ・ ジャーナリスト

事務局長を含む事務局職員については、基本的には自主採用の専従職員を中心とし、独立性を確保するとともに、業務へのモチベーションを保ちます。

バイオテクノロジー関連学会や公益団体等との密接なリレーションにより、合理的な業務のための協力関係を確保します。

また、個人のボランティア協力については、積極的に受け入れていきます。

2) 組織・体制(案)



5 . 中長期の展開指針

バイオテクノロジーの研究開発と実用化は、今後ますます本格化していくことは明らかです。よって、**くらしとバイオプラザ21**の事業は基本的に長期視点に立った継続的な事業となります。その活動目標の設定や評価も短期的な評価ではなく、長期的な将来を見据えての取組みが肝要と考えます。

2001～2003年は全体にわたる活動の基盤を形成し、2004年以降は収益事業も強化し、財務的な改善を図ります。

そのうえで、今後の活動の展望を中長期の観点から描くと、以下のように考えられます。

2001年	<ul style="list-style-type: none">・ くらしとバイオプラザ21の設立及び各種事業の準備・ バイオテクノロジー関係者及びマスコミ関係者への理解浸透
2002年	<ul style="list-style-type: none">・ 4月のNPO化を目標・ 広く一般に認知を広げる・ 活動を本格化させていく
2003年	<ul style="list-style-type: none">・ 活動の全国的な広がり（草の根的な全国展開）・ 情報センター機能（コミュニケーションスペース等）の拡充
2004年	<ul style="list-style-type: none">・ 収益事業の強化

設立への準備と方策

設立に向けて

1) 設立準備とコミュニケーション活動展開のスケジュール

くらしとバイオプラザ21は2002年4月のNPO登録を設立の具体的な目標としています。

ここでは2001年6月(設立決定)から2002年4月(正式設立)までの主な活動を示します。

2001年6月～	2001年10月～	2002年4月～
設立への流れ		
<ul style="list-style-type: none"> 各種事業準備着手 外部協力体制整備 関係方面への説明 会員募集 任意団体設立各種準備 	<ul style="list-style-type: none"> NPO申請 NPO設立準備 小規模なコミュニケーションイベント 	<ul style="list-style-type: none"> NPO設立
コミュニケーション・ツール整備		
名称正式決定・登録 ロゴデザイン開発	名刺・封筒等の整備	名刺・封筒等の整備
くらしとバイオプラザ21 パンフレット作成		NPOパンフレット 作成
オープニング・イベントの開催		
	任意団体発足認知イベント <ul style="list-style-type: none"> 記者発表会 プレスセミナー 業界関係者説明会等 基本的に関係者への認知浸透と協力関係形成を目的にする。	NPO発足イベント <ul style="list-style-type: none"> シンポジウム 記者発表会 一般紙での告知等 広く社会に対して存在をアピールすることを狙いとする。
継続的なコミュニケーション活動		
機関誌発行準備 <ul style="list-style-type: none"> 関係者リスト作成 編集内容検討等 	機関誌の発行	機関誌配布先拡大
ホームページ開設準備 <ul style="list-style-type: none"> 制作体制整備 	ホームページ開設	ホームページ機能強化

<ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツ検討 ・ プログラミング 等 		
コミュニケーション・イベントの検討	コミュニケーション・イベントのスタート	全国巡回イベントの検討
出版企画準備	編集・事業化準備	出版事業展開

2) ホームページ構成案

当面のホームページ構成案としては以下の内容を検討しています。これらはいずれもポータルサイトとして、基本的に整備すべきものと考えます。

以下のうち は2001年10月の整備を目指すものです。

バイオ・ニュースレポート	・社会的に関心のあるバイオ関連の内外のニュースをとりあげ、その背景や問題点等を平易に解説するもの ・メールマガジン配信
バイオ・トピックス	適宜掲載を行う。 ・ CODEX などの国際会議の開催状況 ・ 著名学者インタビュー ・ 内外の関連活動紹介 等
関連リンク集	行政、企業、団体等からピックアップ 使いやすい検索機能
バイオFAQ	・ バイオテクノロジーに関する、よくある質問と お答え ・ バイオの用語解説も
くらしとバイオプラザ21 活動案内	イベント開催案内、開催レポート 出版案内 等
内外法規制・論議等	くらしとバイオプラザ21のネットワークを基盤 に展開
内外研究開発動向等	くらしとバイオプラザ21のネットワークを基盤 に展開

3) ニュースレターの発行

編集内容は基本的に上記ホームページと共通するものです。まず周辺の関係者への無料配布からスタートし、NPO 設立後は会員全員に配布します。

4) コミュニケーションイベント

コミュニケーションイベントは継続的に、臨機応変に行うもので、関係者へのくらしとバイオプラザ21の活動紹介・ご挨拶にあわせ、各方面に必要なコミュニケーションイベントを行っていきます。

5) 出版事業

くらしとバイオプラザ21の出版活動は、一般書店でも販売される事業としての展開を行います。具体的には既存の出版社との業務提携等を検討していきます。

企画検討及び編集については、学界の支援を受け、バイオテクノロジーの基礎知識をわかりやすく提供する副読本の作成や新書形式のシリーズ展開を行います。

6) 情報整備

関連情報の継続的な収集～蓄積～分類・整理～翻訳等の情報整備活動はくらしとバイオプラザ21の活動の基盤となる極めて重要な業務です。

くらしとバイオプラザ21はバイオ関連の情報センターとして、総合的な整備を目指します。主に関連公益団体の活動基盤に、継続的な収集が行えるネットワークを構築していきます。

なお、取り扱う情報として例示すると以下があげられます。

現在発生している社会的関心・問題への対応

< 内容例 >

- ・ 遺伝子解析研究サンプルや治験データに関する倫理・プライバシーの問題
- ・ 組換え穀物の環境への影響
- ・ 組換えジャガイモのラット免疫機能低下
- ・ バイオ関連研究所立地の問題

研究開発と実用化の動向

医薬・医療分野、農業畜産等分野、環境分野、食品分野

国内外の規制及び議論の経緯等

安全性に関するもの

倫理、個人遺伝情報保護に関するもの

< 情報リソース >

- ・ 日本政府及び関係機関
- ・ 欧米諸国政府及び関係機関、国際機関
- ・ 国内外の主要な科学的議論の内容
- ・ 法令、指針等の本文収集、和訳

基礎科学

- ・ DNA、遺伝子、ゲノム等の用語
- ・ 組換え DNA、細胞融合等の技術
- ・ 人と食糧、健康、環境との歴史的関わり 等